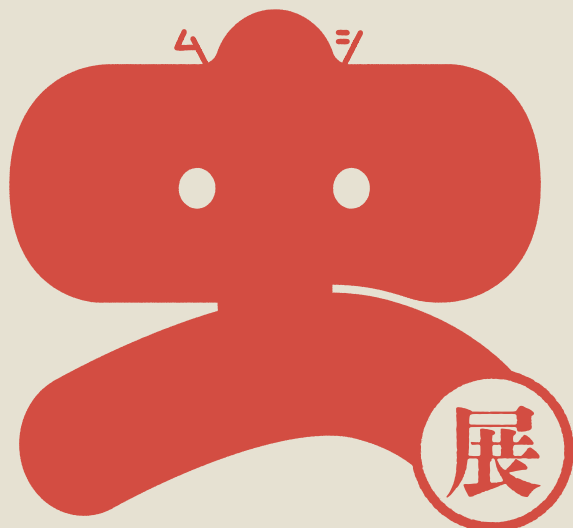


文化に棲まう虫たちがここに。



プレスリリース

このたび市立伊丹ミュージアムでは、夏の特別展として、「虫」展を開催することとなりました。

古来より日本の人びとにとって小さく儂い「虫」は身近な存在でした。なぜなら、「虫」は日本列島のもつ豊かな自然環境の写し鏡であると同時に、生活のなかに深く息づくものとして、人びとの感性と文化を形成してきたからです。一方で「虫」たちは人びとの暮らしに利活用され、さらには神仏のように崇められ、化け物として畏れられてきました。それは豊穡の恩恵と無慈悲な天災という自然のもつ二面性ゆえであり、伝説、風習、信仰という形で日本の人びとの心に刻まれているのです。

本展では、この日本の文化と歴史のなかにさまざまな形で登場する「虫」について、江戸時代を中心とする美術・工芸・俳諧・歴史の多彩な分野の作品資料約140点を通じてご紹介いたします。「虫」が主役の物語絵巻や、「虫」ととことん観察して作られた図譜、「虫」を描いたユニークな作品、人のお腹のなかで悪さをする「虫」、そして妖怪として畏れられた「虫」など、実にさまざまな「虫」たちが集結します。日本の人びとが「虫」についてどのように認識し、研究し、愛でてきたのかを多角的に知るとともに、多種多様な「虫」の奥深い面白さを知る機会とでなるでしょう。

ひとあじ違う「虫」展を、ぜひお見逃しなく！

基本情報

展覧会名：「虫」展 “Mushi” in Japanese culture

会期：2024年8月9日（金）- 9月29日（日）

休館日：月曜休館（ただし8/12・9/16・9/23は開館、8/13・9/17・9/24は休館）

開館時間：10:00-18:00（入館は17:30まで）

会場：市立伊丹ミュージアム 展示室1・2・3・5

料金：一般1,000円、大高生700円、中小生400円

主催：市立伊丹ミュージアム [伊丹ミュージアム運営共同事業体 / 伊丹市]

助成：芸術文化振興基金

関連企画

同時開催「inseCrafts～工芸の虫～」 8/9（金）- 9/8（日）、会場：展示室6、入場無料

同時開催「鳴く虫と郷町」 9/6（金）- 9/15（日）、会場：旧岡田家住宅、旧石橋家住宅、市内の商店など

講演会「虫と妖怪」

講師：小松和彦（国際日本文化センター名誉教授）

日時：9/7（土）14時～（約1時間半）、会場：1階講座室、料金：500円（要当日展覧会観覧券）

定員：80名 ※要事前申込、8/15（木）10時に受付開始、TEL：072-772-5959まで

座談会「昆虫のプロが推す“お虫様”」

登壇者：清水聡司（大阪府営箕面公園昆虫館 副館長）、池田大（榎原市昆虫館 学芸員）、

田中良尚（伊丹市昆虫館 学芸員）/ 進行：奥山清市（市立伊丹ミュージアム館長）

日時：8/10（土）14時～（約1時間半）、会場：1階講座室

定員：100名（申込不要 / 聴講無料 / 要当日展覧会観覧券）



問い合わせ： TEL. 072-772-5959（代表）

①「腹の虫」が描かれた『針聞書』が 展示されます！

九州国立博物館が所蔵する戦国時代の鍼術の秘伝書。人の身体のなかに巣喰って病を起こすと信じられたユニークな「腹の虫」たちが描かれています。絵本やグッズなどにも展開される、大人気の「虫」たちです。

※会期中、頁替え有り。

※該当場面は前期展示（8/9-9/1）



1 『針聞書』安土桃山時代（1568年）、九州国立博物館蔵

②「虫」たちが主役の物語世界がとても素敵。



美しい玉虫のお姫様を巡る「虫」たちの恋争いを描いた絵巻物の《玉むし物語》(no.2)や、秋の夜長に「虫」たちが歌の優劣を競い合う《虫歌合絵巻》(no.3)など、「虫」たちが主役となった絵巻物を展示します。

※会期中、巻替え有り。

※該当場面はどちらも前期展示（8/9-9/1）

2 画卷《玉むし物語》江戸時代（明治26年写し）、公文教育研究会蔵



3 住吉如慶《虫歌合絵巻》江戸時代（1640年）、和泉市久保惣記念美術館蔵

広報用画像について

- 広報用画像のご提供を希望される場合は別紙の申請書をご提出ください。
- 作品画像の使用は本展をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。本展終了後の使用、または二次利用はお断りします。
- 作品画像をご紹介いただく場合、展覧会名、会期、会場、作品名及び指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは一切禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については基本情報確認のため必ずゲラ刷り・原稿の段階でお送りください。

③ 「虫」を描いた美しい、かわいい、そして、愉快的な作品も一堂に。

緻密に、あるいは大胆に描いた「虫」の日本美術や工芸作品もご覧いただけます。 ※掲載作品以外の一部を除き通期展示

4 並河靖之《桜蝶図平皿》有線七宝、明治時代、京都国立近代美術館蔵



5

谷文一《群蝶図》江戸時代、公益財団法人摘水軒記念文化振興財団蔵



④ 伝説となった「虫」の妖怪も集結！

「虫」の妖怪のなかで最も有名なのが「土蜘蛛」。本展ではさまざまに表された「土蜘蛛」が集結。その他にも「大百足」などの「虫」の妖怪もご紹介。

※作品によって会期中、展示入替え、巻替え有り



6 画卷《土蜘蛛草子》、江戸時代（1837年写し）国際日本文化研究センター蔵 ※9/14-9/29 展示



7 月岡芳年《田原藤太秀郷》、錦絵、江戸時代（1865年）、福岡市博物館蔵 ※通気展示

⑤ 「虫」に扮する!?

戦国武将たちが武運にあやかりと身につけた「虫」をモチーフにした武具などを展示。百足の兜にはどんな意味があるのでしょうか？

※通期展示

8 「鉄一枚張南蛮鎖兜」江戸時代
国立歴史民俗博物館蔵



虫に扮したのは武将だけではない！江戸時代に京で起こった「豊年踊り」を描いた《蝶々踊図巻》。まるで仮装行列のようですが、そのなかに「虫」に扮した人たちもいて、なんだか楽しそう。 **※通期展示**



⑥ 虫好きたちの熱意を感じる「虫譜」

江戸時代に、本草学者や博物学者だけでなく、大名や武士たちが虫の図譜である「虫譜」をこぞって作りました。そんな虫好きたちによる「虫譜」を一堂に展示。なかでも当代随一と言われる栗本丹州の『千虫譜』（写し）も展示。

※会期中、頁替え有り

※該当場面は前期展示 (8/9-9/1)

9 『栗氏千虫譜』江戸時代（写本）
西尾市岩瀬文庫蔵



10 小澤華獄《蝶々踊図巻》江戸時代（1839年）
大阪歴史博物館蔵

問い合わせ先：

展覧会担当：岡本、加藤、上野、新宮、鈴木

* 展覧会内容のお問い合わせ・取材依頼については岡本 (okamoto@itami-im.jp) にご連絡ください。

* 広報画像については鈴木 (gakugei@itami-im.jp) にご連絡ください。

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前 2-5-20 TEL. 072-772-5959(代表) <https://itami-im.jp/>

広報用画像およびチケット掲載の申込書

市立伊丹ミュージアムにて開催する「虫」展にて、貴媒体での掲載にあたり画像をご入用の際は下記にご記入の上、FAX かメール：
gakugei@itami-im.jp にてお申し込みください。

画像 (別紙プレスリリース参照)

※ご使用の際は下記キャプションを明記してください。

※部分使用やトリミング、図版の上に文字を重ねるなどの処理は禁止されております。

※掲載記事の校正と完成版を必ず提出していただきますようお願いいたします。

※提供画像は「虫」展告知においてのみ使用を許可します。それ以外での使用はできませんので画像データの扱いにご注意ください。

<input type="checkbox"/>	1	『針聞書』安土桃山時代 (1568 年)、九州国立博物館蔵
<input type="checkbox"/>	2	画卷《玉むし物語》江戸時代 (明治 26 年写し)、公文教育研究会蔵
<input type="checkbox"/>	3	住吉如慶《虫歌合絵巻》江戸時代 (1640 年)、和泉市久保惣記念美術館蔵
<input type="checkbox"/>	4	並河靖之《桜蝶図平皿》有線七宝、明治時代、京都国立近代美術館蔵
<input type="checkbox"/>	5	谷文一《群蝶図》江戸時代、公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団蔵
<input type="checkbox"/>	6	画卷《土蜘蛛草子》江戸時代 (1837 年写し)、国際日本文化センター蔵
<input type="checkbox"/>	7	月岡芳年《田原藤太秀郷》錦絵、江戸時代 (1865 年)、福岡市博物館蔵
<input type="checkbox"/>	8	「鉄一枚張南蛮鎖兜」江戸時代、国立歴史民俗博物館蔵
<input type="checkbox"/>	9	『栗氏千虫譜』江戸時代 (写本)、西尾市岩瀬文庫蔵
<input type="checkbox"/>	10	小澤華獄《蝶々踊図巻》江戸時代 (1839 年)、大阪歴史博物館蔵

告知用のチケットプレゼント 名分 (最大 5 組 10 名)

※ メディアでのチケット告知用に限ります。必ず掲載記事を市立伊丹ミュージアムに提出することを提供条件とします。

※ 転売や違法売買は一切禁止いたします。不正が判明した場合、該当チケットは無効となり、以後のご提供は無しといたします。

媒体名：	掲載日：
御社名：	ご担当：
Mail：	
TEL：	FAX：
住所：	